



堀岡 敏喜 議員
公明党

問 共生の街、弥富市を目指して

答 誰一人取り残さない社会を目指す

○コロナ禍を経て更に深刻化した孤独・孤立問題。本年5月に孤独・孤立対策推進法が成立した。市はどうか認識し取り組んでいくのか以下を問う。

問 市の現状と認識は。

答 (健康福祉部長) 関連する様々な施策を展開してきたが、今後は法の体系に基づき、基本理念を念頭に施策の推進が必要。

問 誰もがSOSを出しやすい環境づくり、問題の共有、周知についてどう取り組んでいくのか。

答 市ホームページに孤独・孤立ウェブサイトにへのリンクを掲載するなど周知を図っていく。

問 社会的孤立等の実態把握・見える化について対応は。

答 取組を周知するために、も実態調査の実施に向け検討する。

問 指標の作成・要因分析等調査研究の継続的な実施について認識は。

答 継続的な調査と指標等を設定し経年比較することで事業効果の分析が可能。

問 申請主義からの脱却等についての認識と対応は。

答 関係機関との連携が不可欠。地域協議会設置の時期も含め、課題を議論していく。

ご支援のお願い

支援をする

孤独は誰にでも起こり得るものです。

望まない孤独・孤立対策に取り組む支援団体を御紹介しています。

内閣官房 孤独・孤立対策担当室

あなたはひとりじゃない
内閣官房 孤独・孤立対策担当室



問 支援者の育成・確保、サポートの認識は。

答 (健康福祉部長) 市の単独よりも広域的に対応することでの成果が発揮される。

問 重層的支援体制整備事業の対応は。

答 地域福祉計画の策定に合わせ実施を計画。

問 重層的な支援の強化を!

答 重層的支援体制整備事業を計画

問 相談体制・居場所・アウトリーチ機能強化への対応は。

答 重層的支援体制整備事業の中で議論する。

問 さらなる自殺対策の強化への対応は。

答 今年度、自殺対策ネットワーク会議を設置した。関係部署、機関、団体と協力し適切な支援に繋げる。

問 ひきこもり支援充実への対応は。

答 健康推進課に総合相談窓口を設置。

問 個人情報取扱いの認識は。

答 法に基づく支援会議を設置する事で情報共有が可能。

問 市長の見解を。

答 (市長) 来年度より2年間、地域福祉計画の策定と共に重層的支援体制事業の実施を計画し、包括的な相談支援体制を整備していく。